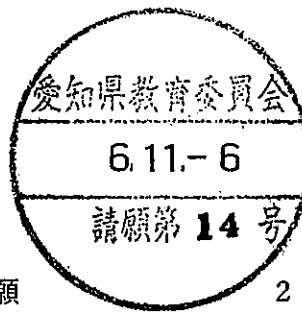




愛知県教育委員会飯田教育長様

請願

2024年11月6日

請願人 行政を考える住民の会

事務局 宮崎邦彦

連絡先



小学校、中学校における、「部活動」の勝利至上主義の排除、及び、全国大会について、教員の負担0、及び、大会の削減及び、廃止を求める請願

請願の理由趣旨

- 1 小学生全国大会から考える勝利至上主義（2022年9月11日 朝日新聞 資料1）全柔連が、小学生の全国大会の廃止を発表して・・・代替イベント。
要約すると、「すべては大人の問題」「子どもたちの楽しかったが一番大事」
大人が勝ちの価値を上げすぎて、のみ込まれてしまった。とある。
- 2 「当たり前」を変えた楽しむ学童野球（203年10月9日）朝日新聞
1 こどもファースト、 2 父母会設置の禁止 3 勝利理想主義 勝利至上主義ではない。3原則は、今後の実施において、継続される参考になるといえる。
- 3 「全中に地域クラブ」対応ばらばらつき（2023年5月12日 朝日新聞 資料3） 中学生 全19競技に、今年度からは学校外の地域スポーツクラブから参加できるようになる。愛知県は13クラブの参加そのものを見送った。とある。
クラブチームは、勝利至上主義の排除へ独自条件 こどもの取り合いになる可能性がある。ことが懸念されているということである。
- 4 全中9競技取りやめ（2024年6月19日 朝日新聞 資料4）
全国中学生体育大会（全中）が2027年度から縮小されることになった。
とある。
縮減進める背景には 少子化 地域移行 夏季競技の暑熱対策 教員の負担軽減 などがあると記載されている。
- 5 全中6競技代替大会検討（2024年6月19日 中日新聞 資料5）
教員の負担軽減を大きな目的の1つとして規模縮小に踏み切っただけに教員頼みで新たな大会を運営するのは本末転倒だ。とある。
スポーツ庁幹部は、夏場に・・・複数の全国大会のある水泳を例に挙げ、教員だけでなく子どもたちの負担になっていると指摘。
みんなが大変だから整理しましょう、という議論をすべきだ。・・・子どもたちがスポーツに親しむ環境をどうするのか考えないといけないと訴えた。とある。
- 6 競技団体と丁寧な議論を 全中の競技削減の方針受け スポーツ庁が中体連に依

頼（２０２４年６月２０日 教育新聞 一部 資料６）

７ 競技団体の大会への一元化 全中競技削減でスポーツ庁長官 中体連の方針に理解示す（２０２４年７月２２日 教育新聞 資料７）

・・・スキーも２９年度が最後となる。

少子化による生徒の減少、夏季大会での猛暑対策、大会運営の教員の負担軽減という課題が背景にある。ということが記されている。

子どもたちの、楽しかったが一番。も、教員の犠牲が前提では、問題である。教員の働き方改革にも逆行する。教員の犠牲は、完全に切り離されることが求められるということでもある。

請 願 事 項

- １ ２０２９年度までに、全競技の運営等、全国大会、教員の負担完全０にすること。
- ２ 全競技、勝利至上主義の排除を基本とすることをもとめること。
- ３ 全競技の運営費等については、あらかじめ予算の範囲で行い、教員の参加は、時間内勤務（時間外勤務は求めない）の範囲で行うこと（各競技の責任者が、時間管理を行うこと。）

添付資料、資料１から資料７については、文中に記載。

口頭意見陳述希望